

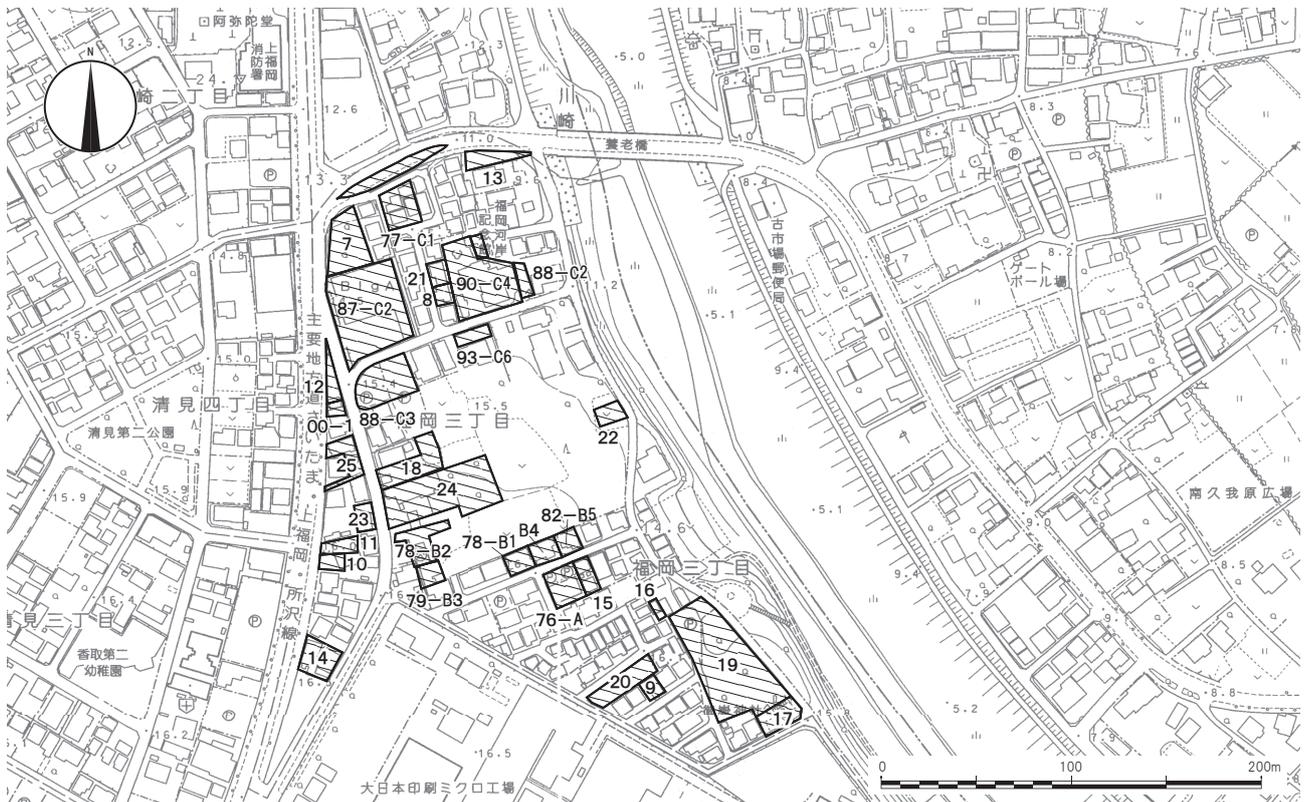
第5章 ハケ遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

ハケ遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎台の東側付け根に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。遺跡の北側は落差 2 m 程度のゆるい斜面を形成し、小支谷が入る。標高は 14 ~ 16 m で、遺跡の範囲は南北 360 m、東西 160 m 以上ある。宅地開発される遺跡中央に畑が残る。

周辺の遺跡は、舌状台地の北側に旧石器、縄文、古墳~奈良・平安時代、中近世の川崎遺跡が隣接し、台地続きの南東側に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の著名な上福岡貝塚、権現山遺跡がある。

1976 年以降、宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、2019 年 4 月現在 32 ケ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代前期から後期の住居跡、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、近世鍛冶遺構（旧福田屋跡）と、2014 年に第 16 地点の発掘調査で、古墳の周溝から 6 世紀の人物埴輪と円筒埴輪多数が出土し、2015 年の第 19 地点でも新たに 3 基の円墳を検出した。本遺跡は便宜上東西に走る道路によって南側からハケ遺跡 A、ハケ遺跡 B、ハケ遺跡 C と呼称していたが、現在はハケ遺跡に統一している。



第 15 図 ハケ遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第17表 ハケ遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
A-1次	大字中福岡字遠見 1228～2021	1976.9.11～16	306	個人住宅	古墳住居跡1、竪穴状遺構3、縄文土器	上遺調
C-1次	大字中福岡字清見1480	1977.8.2～27	1,794	宅地造成	縄文住居跡5、奈良平安住居跡2、竪穴状遺構、土坑、炉跡	ハケC
B-1次	中福岡1228-40	1978.8.28～9.10	165	個人住宅	遺構なし、縄文中期土器片	上埋I
B-2次	中福岡1181-2	1978.9.11～25	360	貸家建設	土坑4、炉跡1、土器	上埋I
B-3次	中福岡1228-37	1979.7.20～31	166		土坑3、縄文土器	上埋II
B-5次	大字中福岡字遠見 1228-46	1982.5.10～17	165		溝1、縄文中期土器	上埋V
C-2次	福岡3-2068-1・2	1987.4.16～5.29	1,900	倉庫付住宅改築	縄文中期住居跡11、奈良平安住居4、掘立1	上埋X
C-3次	福岡2-2-1	1988.8.15～20	627	駐車場	縄文中期住居跡4、平安住居跡2	上埋11
C-試	福岡3-4-2	1988.10.24～28	60	擁壁改修工事	縄文前期住居跡1	上埋11
C-4次	旧福田屋敷地内	1990.6.20～9.6 H3.1月末～継続調査予定	500		旧福田屋柱礎石跡、鍛冶屋建物跡、(礎石・火処3・物置跡・粘土貼りつけ円形小竪穴)・江戸前期～中期長方形土坑12・溝1・平安住居跡3・縄文中期住居跡2、縄文後・晩期住居跡3	H2上社、市史資
C-6次	福岡3-1189、2065-2	1993.5.6～18	141.91	個人住宅	縄文中期土坑6	上埋16
C-4次	福岡3-2069-1の一部	1994.6.10～1.31	54	河岸記念館管理棟・庭造成工事	縄文中期住居跡5、土坑30	上埋17
C-試	福岡3-1884-8	2000.1.26	100	個人住宅	遺構遺物なし	上埋22
C-7次	福岡3-2	(2006.7.10～22)	666	宅地造成	縄文・奈良平安遺構検出	市内3
C区8	福岡3-2069-9	(2009.3.17)	99	個人住宅	住居跡確認	市内6
C区9	福岡3-1257-7、 1259-1	(2010.2.2～4)	120	個人住宅	土坑1、風倒木1	市内8
10	福岡3-1363-14	(2011.4.22)	122.1	個人住宅	時期不明溝1	市内14
11	福岡3-1363-11	(2011.4.21～22)	157.7	分譲住宅	縄文時代屋外埋壘1、土器	市内14
12	福岡3-1472-1	(2012.9.24)	122	個人住宅	ピット1、土器	市内15
13	福岡3-1484-1	(2013.10.2～3)	183	個人住宅	遺構遺物なし	市内18
14	福岡3-1363-15	(2013.11.22)	144	個人住宅	遺構遺物なし	市内18
15	福岡3-1228-19	(2014.4.8～9)	184.09	共同住宅	遺構遺物なし	市内20
16	福岡3-1254-7・14・ 17	(2014.8.11～9.2)9.3 ～9	68	分譲住宅	古墳1基、人物・円筒埴輪等、縄文土器	市内21
17	福岡3-1219-1・2	(2014.9.26～30)	98.58	個人住宅	現代のゴミ穴1、近世～近代陶磁器、ガラス製品	市内20
18	福岡3-1182、2066- 5	(2014.12.4～10) 2015.1.6～16	510.67	個人住宅	縄文時代中期住居跡1、炉4、土坑2、溝2、縄文土器	市内16
19	福岡3-1222-1、1223 ～1225、1255	(2015.3.17～5/11・ 10/13)6/2～9/19	2,296.5	宅地造成	古墳3、溝2、縄文土器、土師器、埴輪	市内21
20	福岡3-1252-1	(2015.10.14～16) 2015.10.29～30	375	分譲住宅	古代以降の堀跡1、土坑1、土師器、火工廠境界杭	市内21
21	福岡3-1193-4・15、 2069-10	(2016.1.5)	101	個人住宅	遺構遺物なし	市内22
22	福岡3-2061-3の一部	(2016.12.26～ 2017.1.19、9.11) 2017.1.25～2.8	249.32	はげ自治会集会所 施設	古代住居跡1(H18)、土坑13、ピット13、縄文土器、土師器、須恵器、石器、瓦	市内24
23	福岡3-1183-1の一部	(2017.7.18)	137	個人住宅	ピット、縄文土器片	市内24
24	福岡3-1178-1、1179-1、 1180-1、1181-1、2066- 2、2067	(2017.7.19～27) 2017.7.28～8.7	1,702.15	宅地造成	縄文時代住居跡1、竪穴状遺構1、土坑2、時期不明集石土坑1、ピット12、縄文土器、石器、須恵器、陶磁器	未報告
25	福岡3-1184-5・6	(2018.6.12)	297	分譲住宅	遺構なし、土器片	未報告

第18表 ハケ遺跡古代住居跡一覧表

新 住居 番号	旧 調査 年度	調査名	調査率	平面形 ()は推定	規模 ()は残存 又は推定値	炉 竈：K	設置 壁・炉 位置	周溝	主軸 方向	時期	備考	所収報告書
1	1976	A地区LN01	1/2	隅丸方形	440×	K	北	○		鬼高		上遺調
2	1977	C地区3号住居	完掘	長方形	470×480	K	北	○		8世紀3四半 期		ハケC
3	"	C地区8号住居	完掘	長方形	560×388×44	K	北	○		8世紀4四半 期		ハケC
4	1987	C地区2次6号住居	完掘	方形	300×280	K	北			国分		上埋X
5	"	C地区2次10号住居	完掘	長方形	450×300	K	北	○		8世紀末		上埋X
6	"	C地区2次12号住居	完掘	長方形	400×340	K	南東	○		9世紀後半		上埋X
7	"	C地区2次15号住居	南東1/4		—			○		9世紀後半		上埋X
8	"	C地区2次掘立柱建物		桁行4間×梁間2間	870×470				東面に庇	8世紀中葉		上埋X
9	1988	C地区3次17号住居	完掘	長方形	350×290	K	北東	○		10世紀初頭		上埋11、市史資
10	"	C地区3次20号住居	南東1/6		—					8世紀3四半 期		上埋11、市史資
11	1990	C地区4次27号住居	完掘	方形	400×380		北東	○		10世紀初頭		上埋11、市史資
12	"	C地区4次32号住居		カマドの痕跡が確認されたため住居とした						10世紀初頭		上埋11、市史資
13	"	C地区4次33号住居	ほぼ完掘	方形	320×340			○		8世紀3四半 期	カタイ金具 出土	上埋11、市史資
14	2013	H14号住居		長方形	410×340	K	北	○		8世紀中頃		市内13
15	"	H15号住居		長方形	290×275	K	北			9世紀か		市内13
16	"	H16号住居		不整形	395×468	K	北			8世紀後半		市内13
17	"	H17号住居		不明	(300)×140					8世紀前～中 頃か		市内13
18	2016	H18号住居	完掘	方形	330×340	K	東	○	N-82°-E	9世紀		市内24



第16図 ハケ遺跡遺構分布図 (1/1,500)

Ⅲ ハケ遺跡第23地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2017年6月20日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2017年7月18日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1～1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約20～30cmである。

調査の結果、ピット2基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。

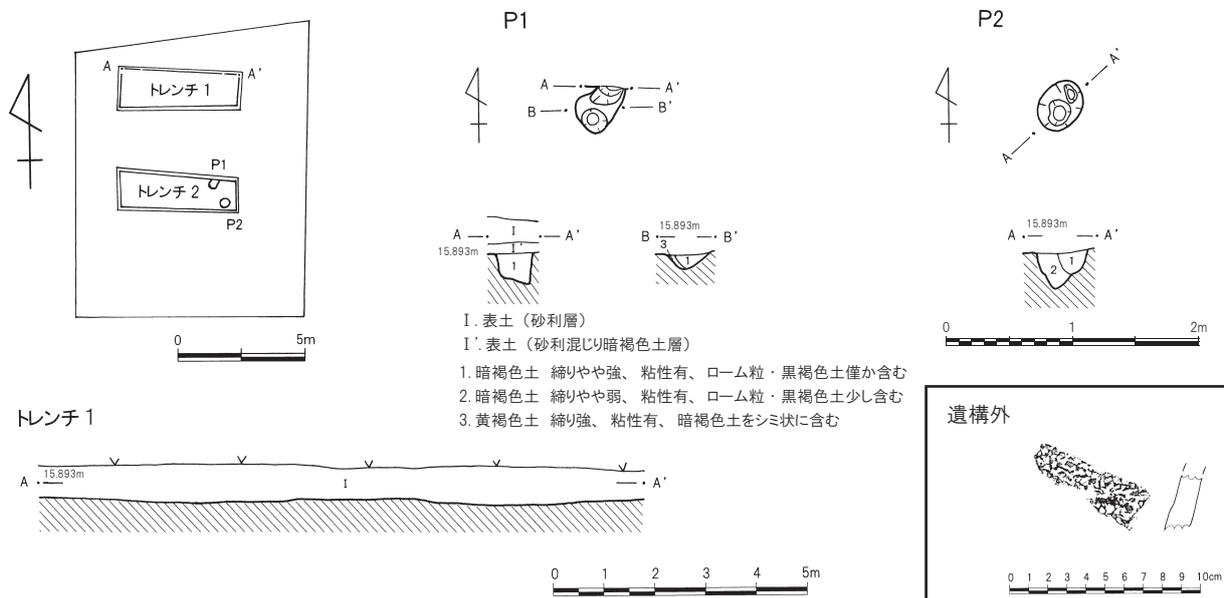
(2) 遺構と遺物

①ピット

ピット2基はいずれも調査区中央部で検出した。ピット1は平面形態が不整形で、確認面径(37)×33cm、底径12×(4)cm、深さ26.9cmを測る。ピット2は確認面径40×32cm、底径10×10cm、深さ32.2cmで円形を呈する。いずれも出土遺物はないが、土層の観察から縄文時代のものと考えられる。

②出土遺物

遺物は表土中より出土した縄文土器片である。深鉢の破片で、地文LR縄文のようだが摩耗が激しく判然としない。胎土に雲母を含む。内面が黒色化している。中期か。



第29図 ハケ遺跡第23地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、ピット(1/60)、出土遺物(1/4)



ハケ遺跡第 23 地点ピット 1



ハケ遺跡第 23 地点ピット 2



ハケ遺跡第 23 地点トレンチ 1



ハケ遺跡第 23 地点トレンチ 2

ハケ遺跡
第 23 地点 遺構外

